はくぶつかんの部屋 27

地域に学ぶ、わらば～体験じゅく

博物館には、さまざまな資料を集めて、保管し、展示・公開する役割があります。それだけでなく、調査研究の成果を紹介する社会科学習や市民講座といった教育普及活動にも力を入れています。今回は、その活動の一環として宜野湾市立博物館が行っている「わらば～体験じゅく」についてご紹介します。

「わらば～体験じゅく」とは、市内在住の小学5・6年生の30名を対象に開いている体験教室です。当館が開館した1999年から毎年開催しており、今年で第16回目を迎えます。これまでに、約450名の子ども達を送り出しており、なんとその中には、現在、当館で働く卒業生もおります。

わらば～体験じゅくは、日常生活では関わることの少ない、郷土の自然や文化などの体験を通して地域の特徴を学ぶことを目的としています。また、1年間を通して体験学習を行うことで、他校、異学年のじゅく生同士で交流し、仲間と協力することの大切さを学ぶねらいもあります。さらに、地域の方々を中心に講師を依頼することで、地域と博物館の連携を図ります。

体験じゅくでは、本市の特産品である大山の田イモの植付けや収穫、喜友名の石獅子群巡りなどを行っています。そして、ウシとふれ合おうという体験では、かつて宜野湾で娯楽の一つとしてにぎわいをみせた闘牛について、実際にウシとふれ合いながら学ぶ内容となっております。

毎年多くの参加希望者がおり、子ども達の地元の自然や文化への関心が高いように感じ、嬉しく思います。わらば～体験じゅくでは、宜野湾市の将来を担う子ども達が、色々な体験をして成長する姿を見守りたいと考えております。

↑大山で田イモの収穫

↑闘牛の背中に乗って記念撮影

企画展開催中
「宜野湾　戦後の復興とくらし」
9月6日(日)まで、入館無料
【お問合せ】
市立博物館　☎870-9317

茶ぐわーゆんたく 136

市指定文化財『第1号』！

夏の暑い日々、「水」は、飲み水、水浴びなどで、私たちをリフレッシュさせてくれます。現在は水道の蛇口から、いくらでも水を使うことができますが、昔の人々にとって水は「汲む」もので、たいへん貴重でした。

地形や地質の特徴から宜野湾市は地下水が豊富で、消滅したものを含めると100を超える湧水が確認されています。湧水とは、地下水が自然の状態で湧き出している場所であり、また、湧き出している水を指します。方言では「カー」といいます。

写真は「我如古ヒージャーガー」です。「ヒージャー」というと、方言の山羊を想像してしまいますが、この場合の「ヒージャー」は「樋川」のことで、水の湧き口に樋をかけて導く形式のことをいいます。1892(明治25)年、区出身の優れた石工2名の指導により、区民総出で、半年かけて造られた湧水と伝えられます。

この湧水のすばらしさは湧き水のみでなく、建造物としての文化的価値にあります。注目に値するのはカミソリも入らないほど精巧に噛み合う「あいかた積み」や岩盤を削って造られている石畳道の石造り技術です。そのため他の文化財に先んじて、1976(昭和51)年に市指定文化財「第1号」に指定されました。都市の喧騒の中にひっそりとあるこの空間は、我如古公民館の裏手にあります。かつては、飲み水や洗濯等の生活用水として利用され、情報交換の場としてにぎわっていたことでしょう。

古来より、人々はまず、水のある所に集落を形成しました。水にはセジ(霊力)があるとされ、正月の若水(ワカミジ)、産湯など人生の節目や、行事の際に拝まれてきました。樋口から流れる水音を聞いていると、当時の人々の声が聞こえてくるようです。生命の源であり、先人が大事にしてきた湧水をこれからも守っていきたいものです。

▲我如古ヒージャーガー　降り口には現在、手すり付きの階段が設置され、当時の人々の利用の様子が描かれた案内板もあります。

『宜野湾市史』への問合せ
市立博物館　☎870-9317